

生徒が安心して通える居場所づくり ～生徒が主体となる教科指導と生活指導を通じて～

葛飾区立葛美中学校 研究推進委員会

1 研究主題設定の理由

本校では『安心して通える居場所づくり～生徒が主体となる教科指導と生活指導を通じて～』という研究主題のもと、生徒の自己肯定感や自己有用感を向上させるとともに、生徒主体の活動を実施し、生徒同士のコミュニケーションを図り、学校が生徒にとって、安心して通える居場所になるよう尽力している。

今年度も、学校生活全般を通してグループ活動を行い、主体的に取り組み、生徒一人ひとりが受け入れられ、お互いに聴き合える環境をつくることで、安心した学校生活を送ることで居場所をつくり安心して通えることができると考え、研究主題を設定した。

2 研究主題達成のための取り組み

本校では、研究主題の達成に向け、以下のような取り組みを行っている。

(1) 学習面の充実：「学びの共同体」の理念に則った、4人組での授業の実践

本校では、佐藤学氏が発案した「学びの共同体」の理念に則った授業を展開した。「学びの共同体」とは、ヴィゴツキーが提唱した発達の最近接領域から、一人ではできないが、外部からの助けを得れば、解決することができるレベルが最も効果的に学習が定着すると考え、教科書レベルの「共有の課題」とクラスの3分の1くらいの生徒が解ける「ジャンプの課題」を授業で用意し、4人組でお互いに聴きあい、教え合う授業だ。この「学びの共同体」を行うことで、学習の定着を図るとともに、生徒にとって教室が安心して、聴きあうことができる空間なるよう努めた。

(2) 生活面の充実：生徒主体のグループエンカウターの実践

グループエンカウターを通して、生徒同士でのコミュニケーションを図るとともに、それぞれに役割を設け、生徒の自己有用感や自己肯定感を育めるよう努めた。

(3) 特別支援教育の充実：校内委員会の充実

校内委員会を通して、教室に入れない生徒への対応や特別な支援が必要な生徒への教室復帰に向けたプログラムを組織的に対応するよう努めた。

(4) 校内研修の充実

現任教員や大学教授、学校経営アドバイザー、法務局職員など様々な知識をもつ外部講師をお呼びし、質の高い校内研修を行い、教員としての質の向上に努めている。また、研究主題達成に向け、学期に1回はお互いの授業を見合う時間を設け、意見交換をし、授業力の向上を図った。

3 実践事例（「学びの共同体」の理念に則った、4人組での授業）

○ 実践1 中学1年 英語科

1. 単元名 Learning LITERATURE in English 1時間目／全1時間

2. 本時の目標

- ・1年間の英語学習のまとめとして、authentic な英語教材に触れ、言語理解としての目標地点を知る。
- ・場面、状況、人物、背景知識などを踏まえた「相互作用」的な読み取り方について知り、実践する。

3. 本時の展開 使用教材：Disney [Frozen “アナと雪の女王”]

		学習活動および学習内容	教師の指導や留意点
導入（3分）		○授業開始時より4人グループ ・本時の活動内容を把握する。	・グループの人数を調整し、孤立する生徒を作らない。
展 開	共有の課題 （22分）	○映画「Frozen」本編予告動画の音声を文字として書き起こしたワークシート①を配布する。 ・既習単語が空欄になっており、生徒は authentic な音声を聞きながら、聞き取れた英単語を書き入れていく。得た情報をグループ内で共有し、各自の答えを構築していく。 ・教師は何度も動画を再生し、生徒の学習状況に応じながら、足場架けとしてわかったところまでの全体共有や、ヒント（最初の子音の提示や再生速度の調整）を与え、再構築した答えを班で共有する。 ・穴埋めした解答をクラス全体で共有し、答え合わせをする。	・生徒の取り組み状況に応じた、効果的な足場架けを行えるよう臨機応変にサポートする。 ・音声資源だけでなく、映像や文法的な情報からも英語を推測できることを伝える。 ・孤立している生徒にアプローチしていく。
	ジャンプの課題 （20分）	○共有の課題で聞き取ったあらすじをもとに、映画「Frozen」のストーリーが要約された英文のワークシート②と、「Frozen」のチャプターを象徴するシーンが書かれたワークシート③を配布する。 ・ワークシート②にランダムに配置されたチャプターの英文を読解し、その各チャプターがワークシート③のどの場面のシーンを表しているか考え、リンクさせていく。その際、場面、状況、人物、背景知識などを踏まえた「相互作用」的な読解ができるよう、学習状況を見て声掛けを行う。 ・解答をクラス全体で共有し、答え合わせをする。	・「相互作用」的な読解に結び付けられるよう、既習単語に目を向けさせ、点と点で物語とシーンを繋げられるような声掛けを行う。
まとめ（5分）		○既習表現や文法が、authentic な資料においてどのような形で表されているかを理解するとともに、これまでの学びがそこに通じていることを認識させ、振り返りを記入する。	本時のまとめを行い、ワークシートを回収する。

○ 実践2 中学2年 数学科

1. 単元名 6章 確率 2節 確率の求め方（6時間目／全7時間）

2. 本時の目標

- ・いろいろな確率を求めることができる。

- ・実験を通して、確率の起こりやすさを実感することができる。

3. 本時の展開

	生徒の学習活動	教師の指導や留意点
導入 (7分)	・本時の目標を把握する。 ・宝くじに関する基本的な知識を知り、関心をもつ。	パワーポイントを使い、宝くじ1等の確率の説明を行う。
基礎課題 (13分)	・ワークシートの【例1】に4人組で取り組む。 ・例えば、2つのサイコロの投げたとき、全ての場合は「$6 \times 6 = 36$通り」のように、かけ算によって求まることを確認する。また、2つとも1は1通りしかないので、答えは$1/36$となることを確認する。 ・4人組で9個のサイコロを振って1千万分の1という確率の難しさを実感する。	・「かけ算を使うことで、表や樹形図を書かなくても全ての場合が何通りか求めることができる」ということを、全体に共有する。
発展課題 (23分)	・ワークシートの【問1】に4人組で取り組み、5人でジャンケンをしたときに勝敗がつく確率を考える。 ・最初の実験と記録により、「勝敗が決まるときはどんなときか」という気付きのヒントを得る。 ・4人組で意見を出しながら、解答を考える。	以下の2つのポイントに気付くよう支援を行う。 ・【例1】で共有したことを使い、全ての場合は3^5で求めることができる。 ・勝敗が決まるのを考えるとき、例えば全員が「グーかチョキ」は2^5で求めることができる。ただし、全員がグーとチョキは除くので2通りは除外する。
発表、 まとめ (7分)	・他の4人組の【発展課題】の解答を聞き、理解を深める。 ・本時の振り返りを記入する。	・36人でジャンケンを行ったときでも確率は137万分の1であることを伝え、実験してみる。 ・本時のまとめを行い、ワークシートを回収する。

4 実践事例（知的障害特別支援学級 グループエンカウンター）

○ 実践1 中学1年（特別支援学級） グループエンカウンター

1 単元名「表現をしよう（協力説明ゲーム）」

2 本時の目標

- ・人の話や意見をよく聞き、自分の意見も伝える。
- ・物事を相手に分かりやすい言葉で説明する。
- ・句読点を意識して文を作る。

3 本時の展開

時間	主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項
		T1、T2
導入 13分	- 先生の週末の話を聞く。(5分) - ペアで週末について話す。(8分)	- 週末のことについて、話したいことがなければ、他のどの内容でもよいことを伝える。 - 反応が大事であることを伝える。
展開 30分	- ゲームのポイント説明 - ゲーム1 全員で協力し絵の説明をする。 - 説明のポイントを解説 - 次のゲームへ向けて席順を話し合う - ゲーム2 全員で協力し絵の説明をする。 - 説明のポイントを解説 - 次のゲームへ向けて席順を話し合う - ゲーム3 全員で協力し絵の説明をする。 - 説明のポイントを解説。	- AIにも伝わるように説明をするよう伝える。 - 一人何文で説明するかを先に伝える。 - 大枠から話すこと、一文の句読点の使い方について触れる。 - 話し合いのルールを設定する。 - モニターを見ながら、例文を提示する。 生徒にも案を出させる。 - 段階的に、振り返りの説明の難易度を上げる。
まとめ 7分	扱った3つの絵の説明を振り返る。	正解の絵を見せた上で、改めて説明をさせる。

○ 実践2 中学2年(特別支援学級) グループエンカウンター

1 単元名 「砂漠 SOS (コンセンサスゲーム)」

2 本時の目標

- 自分の考えをもち、相手に伝えることができる。
- 相手と相談しながら、互いの意見を尊重する合意形成を図ることができる。

3 本時の展開

時間	主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 <評価方法>
		T1、T2	

導入 5分	① 前時の振り返り ② 話し合いのポイントの確認	① 前回行った「無人島 SOS」の内容を振り返り、活動内容の見通しをもたせ、安心して取り組めるようにする。 ② 話し合いの約束事項を確認させる。	
展開 40分	①本時の内容とねらいを確認する。 ①説明は簡潔にする。 本時のテーマ「砂漠 SOS～生き残るために必要なものはなにか～」 本時の目標「話し合いの中で答えをだそう」 ②「砂漠 SOS」条件等を説明（5分） ③自分の意見をまとめる（10分） ④グループでの話し合い（15分） ⑤グループ発表（5分） ②砂漠の映像や必要な品物をスライドや映像を見せながらイメージさせる。 ③取り組めていない生徒には個別に言葉がけし促す。 ④じゃんけんや多数決ではなく、理由を説明しながら話し合って決定させる。 ⑤発表をしっかりと聞くように促す。 ・自分の考えをもつことができている。 ・話の中で自分の意見を言えている。 ・相手の意見を受け入れ合意形成しようとしている。		
まとめ 5分	○振り返りの記入、発表	・ワークシートの振り返りを記入させる。 感じたことや気づいたことなどを振り返り、共有させる。	ワークシートの確認

○ 実践3 中学3年（特別支援学級） グループエンカウンター

1 単元名 「店内図を完成させよう（コンセンサスゲーム）」

2 本時の目標

- ・自分の情報を正しく言葉で伝えることができる。
- ・お互いの考えを尊重し合い、情報を整理して、グループで答えを導き出すことができる。

3 本時の展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点 配慮事項
導入 5分	・挨拶、前回の復習	・前回の内容を思い返して、答えさせる。

	○ねらい・課題の確認	・ねらいを説明する。 ・課題を読み課題を共有する。
展開 40分	○ルールの確認 ・口頭のみで情報カードの情報を提供する。 ・他人の情報カードを見たり、自分の情報カードをみせてはいけない。 ・情報をそのまま紙に書き写したり、一覧表にしてはいけない。 ・一人一人の意見を尊重する。 ○3人組で話し合い ・全員で考え、話し合いに参加する。 ・友達の意見をよく聞き、反応する。 ○各グループで結果発表 ・答え合わせ	・ワークシートが配布する ・情報カードをグループのメンバーに配布する。 ・全員が考え話し合いに参加するように声掛けをする。 ・話し合いに入れていない生徒がいたら質問をふるようにする。 ・早く終わったら再確認するように促す。 ・紙に各グループの結果を書き留めるように声掛けをする。 ・理由を全員が説明できるようにする。
まとめ 5分	5. 授業の内容を振り返る。 ・プリントの振り返りを記入する。 6. 挨拶	・お互いに振り返りを共有させる。

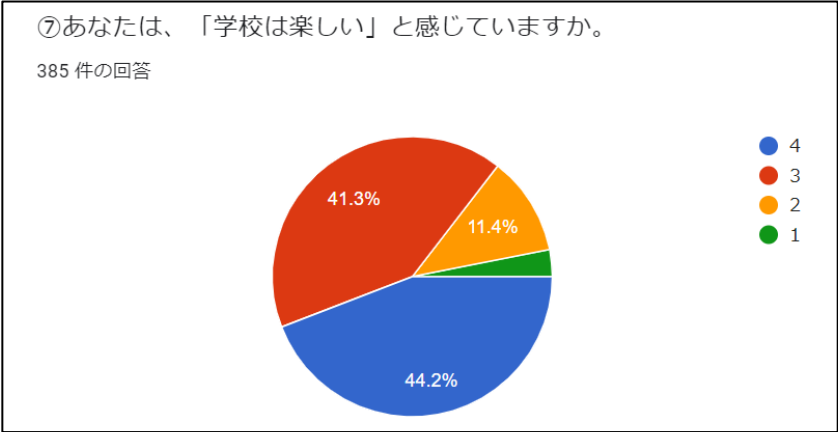
5 実践事例（校内研修の充実）令和6年度

	月	日	曜日	テーマ	内容	講師など
第1回	4	11	木	手引き 読み合わせ	・進路の手引きの読み合わせ ・校内研究の確認	・研究推進委員
第2回	4	24	水	生徒理解①	・1・2・3年生、特別支援学級の生徒理解、対応について ・本校の特別支援教育について	・本校 SC ・本校特別支援コーディネーター教員
第3回	5	29	水	研究会①	・学びの共同体について	学びの共同体スーパーアドバイザー
第4回	6	26	水	研究会②	・教科による評価評定の情報交換	
第5回	7	17	水	いじめ研修①	・いじめの定義と本校の対応について ・愛着障害について	・本校生活指導部教員 ・他校主幹教諭
第6回	7	19	金	服務研修	・服務について	・本校管理職
第7回	11	8	金	研究会③	・グループエンカウンター(ひらめき体	・研究推進委員

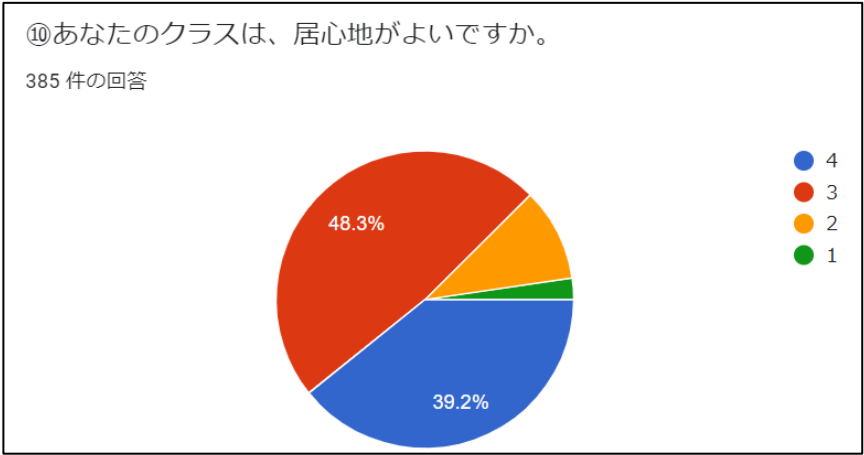
					験教室)	
第 8 回	1 2	1 8	水	研究授業①	・ 特別支援学級グループエンカウンター研究授業	・ 本校特別支援学級教員
第 9 回	1 2	1 8	水	いじめ研修②	・ いじめの報告と本校の対応について ・ 非行生徒の対応とメカニズム	・ 本校生活指導部教員 ・ 東京法務少年支援センター職員
第 10 回	1 2	2 5	水	服務研修	・ 服務について	・ 管理職
第 11 回	1	2 7	月	研究授業②	・ 研究授業	・ 本校社会科教員
第 12 回	2	1 9	水	研究授業③ 研究会④	・ 研究授業 ・ 「学びの共同体」について	・ 本校数学科教員 ・ 学びの共同体スーパーアドバイザー
第 13 回	3	1 2	水	いじめ研修③ 研究会⑤	・ いじめの報告と本校の対応について ・ 今年度の研究の進捗と次年度の研究についての全体共有	・ 本校生活指導部教員 ・ 研究推進委員

6 成果と課題

令和 6 年度 2 月に 1・2・3 年生ならびに特別支援学級の生徒に向けて、学校生活に関するアンケートを行った。「学校は楽しいと感じているか。」の項目では、「とてもよく思う」、「よく思う」を合わせた割合は、85.5%と本校に在籍している多くの生徒が学校を楽しんでいることがわかった。



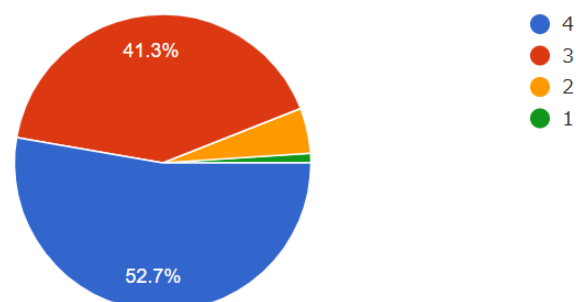
次に、「あなたのクラスは、居心地がよいか。」の項目でも、「とてもよく思う」、「よく思う」を合わせた割合が、87.5%と多くの生徒が在籍するクラスを居心地がよいと感じていることがわかった。



また、「友人に優しくするなど、みんなが安心して生活できるクラスや学校をつくろうとしているか。」の項目では、「とてもよく思う」、「よく思う」を合わせた割合が、94%となり、生徒自らがクラスや学校が安心できる居場所になることを望み、そのような環境になるよう動いていることがわかった。

⑮あなたは、友人に優しくするなど、みんなが安心して生活できるクラスや学校をつくろうとしていますか。

385 件の回答



最後に、「授業において、ペア・グループ活動や ICT 機器等を取り入れることで、授業楽しく取り組めているか。」という項目では、どの科目においても、「とてもよく思う」、「よく思う」を合わせた割合が 75%以上の結果となり、授業に対する意欲の高さがわかる結果となった。

以上の結果から、本校の研究主題である『安心して通える居場所づくり～生徒が主体となる教科指導と生活指導を通じて～』を達成するべく行った研究においては、一定程度の成果があるといえたと考える。また、本校では、教室に入れない生徒が教室復帰を目指して登校できるサポートルームがあり、各学年 5 名程度が利用している状況がある。教室に通えない生徒が安心して通える居場所づくりとして、校内委員会の充実も一定の効果があったと言える。

しかし、その一方で、「学校は楽しいと感じているか。」や「あなたのクラスは、居心地がよいか。」の項目では、あまりそう思わない、そう思わないの項目がともに 10%以上あり、このことからクラスの 10 人に 1 人は、学校もしくはクラスに対して、安心して通える居場所だと感じていないことがわかる。この結果から、本校が在籍する、すべての生徒にとって、安心して通える居場所になっているとはいえず、その点は今後の課題として、考えていく必要があるといえる。本研究は 2 年計画で進めているため、今年度出てきた課題に対して研究推進委員会を中心にさらに充実した研究研修の実践を図っていきたい。